

CallManager DC Directory および Active Directory - ユーザが表示されない

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[DC Directory でユーザを非表示にする](#)

[Active Directory 2000 でユーザを非表示にする](#)

[Active Directory 2003 でユーザを非表示にする](#)

[Cisco Unified Call Manager 5.x 以降を同期する際に DC Directory および Active Directory でユーザを非表示にする](#)

[ユーザを再表示する](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ユーザを社内ディレクトリで表示させない場合に、ユーザを非表示にする方法を説明します。これらのユーザは、CTI ユーザ、アテンダント コンソール、Cisco Emergency Responder、Cisco Conference Connection などです。CCMSysUser、CCMAdministrator および PMASysUser ユーザは、すでにデフォルトで非表示になっています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco CallManager の管理
- ディレクトリ管理

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 4.x 以降に基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

DC Directory でユーザを非表示にする

注: スクリプトの実行後、そのユーザは社内ディレクトリおよび CCMAdmin ユーザ ページでは非表示になります。ユーザを再表示する方法については、このドキュメントの「[ユーザを再表示する](#)」の項を参照してください。

DC Directory でユーザを非表示にするには、次の手順を実行します。

1. パブリッシャ サーバでメモ帳を開きます。
2. 次の 4 行をカット アンド ペーストし、C: ドライブに `hideuser.ldif` として駆動して下さい。
注: スペースは次の出力のように表示されます。LDIF ファイルに余分なスペースがないことを確認します。余分なスペースがあると、スクリプトを実行したときに失敗します。

```
dn: cn=[userid], ou=users, o=cisco.com
changeType:modify
replace:Description
Description:CiscoPrivateUser
```

3. `[userid]` に非表示にするユーザを設定します。次に、例を示します。

```
dn: cn=ctiuser, ou=users, o=cisco.com
changeType:modify
replace:Description
Description:CiscoPrivateUser
```

4. `[Start] > [Run] > [cmd]` の順に選択してパブリッシャ サーバでコマンド プロンプトを開き、DC ディレクトリの説明フィールドを設定するために次のスクリプトを実行します。

```
ldapmodify -h <server name> -p 8404 -D "cn=Directory
Manager,o=cisco.com" -w <DCAdmin Password> -c -f hideuser.ldif.txt
```

正常に実行されたことが出力に表示されています。

```
C:\>ldapmodify -h CallManagerPub -p 8404 -D
"cn=Directory Manager, o=cisco.com" -w Cisco -c -f hideuser.ldif.txt
modifying entry cn=ctiuser, ou=users, o=cisco.com
```

Active Directory 2000 でユーザを非表示にする

Windows 2000 サポート ツールの一部として使用可能な Microsoft Active Directory Service Interfaces (ADSIEdit)、またはその他の LDAP ツールを、`[Description]` フィールドを更新するために使用します。ユーザの `[Description]` フィールドに文字列 `[CiscoPrivateUser]` を追加します。ツールを使用できない場合は、次の出力を使用します。

```
dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: CiscoPrivateUser
```

このファイルを、アクティブ ディレクトリ サーバに `hideuser.ldif` として保存します。次に、アクティブ ディレクトリ サーバで `ldifde -l -f hideuser.ldif` を実行します。

Active Directory 2003 でユーザを非表示にする

次の 5 つの行をコピーします (最初の 4 行の後にある「-」に注意してください)。Active Directory 2003 ではこれが必要です。また、Active Directory 2002 からテキスト ファイルに変更されました。[userid] を、非表示にするユーザの userid で置き換えます。[domain] を使用しているドメインに置き換えます。このファイルを、アクティブ ディレクトリ サーバに **hideuser.ldif** として保存します。

```
dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: CiscoPrivateUser
-
```

アクティブ ディレクトリ サーバで、**ldifde -i -f hideuser.ldif** を実行します。

[Cisco Unified Call Manager 5.x 以降を同期する際に DC Directory および Active Directory でユーザを非表示にする](#)

LDAP 統合アーキテクチャは、Cisco CallManager 4.x と Cisco CallManager 5.x の間で大きく変化したため、Cisco CallManager 5.x でユーザを非表示にするには、次の手順を実行します。

注: Cisco Unified Communications Manager 5.x 以降では、ユーザを非表示にするために、CiscoPrivateUser に説明を設定することはできません。これはサポートされていません。

Cisco Unified Communications Manager が Linux ベースの場合、次の回避策を使用してください。

1. アプリケーション ユーザは、IP フォンからは社内ディレクトリに表示されません。したがって、社内ディレクトリに表示したくないユーザは、アプリケーション ユーザに設定します。これにより、Cisco CallManager 4.x から Linux ベースの Cisco Unified Communications Manager にアップグレードすると、そのユーザを Active Directory または DC Directory から削除できます。
2. Active Directory または DC Directory でユーザを削除しない場合、非表示にするユーザを別の組織ユニットに関連付けることができます。こうすると、Cisco Unified Communications Manager がそのユーザを処理する必要はなくなります。次に、新しい追加のアプリケーション ユーザを作成します。詳細については、「[アプリケーション ユーザの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が Windows ベースの場合、次の回避策を使用します。

1. Cisco Unified Communications Manager は、Active Directory または DC Directory で LastName 属性を持たないユーザは同期しません。したがって、Active Directory または DC ディレクトリから非表示にするユーザの姓を削除できます。
2. 社内ディレクトリに識別名が表示されないようにするため、Active Directory 側のアクセスコントロール リストを設定できます。
3. 「[」などの特殊文字を [First name]、または [Last name] 属性に追加し、LDAP を再同期できます。これらのユーザは、社内ディレクトリに表示されません。

[ユーザを再表示する](#)

ユーザを再表示するには、フィールドの [Description] を、[CiscoPrivateUser] 以外に変更する必

必要があります。変更する手順は、ユーザを非表示にする際の手順と似ています。

- **DC Directory :**

```
dn: cn=[user], ou=users, o=cisco.com
changeType:modify
replace:Description
Description: PublicUser
```

- **Active Directory :**

```
dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: PublicUser
```

次に、元のスクリプトを再度実行します。

[関連情報](#)

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)